

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第 41 号

発行日：平成 21 年 5 月 1 日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧 1 丁目 1 番地

伊丹市教育委員会事務局内

「一期一会」「おもてなし」の心 会長 池田利男

あいたい兵庫、デスティネーション・キャンペーンの実施により、「おもてなし」が重要視されています。我々が市外からの訪問者に文化財のガイドをする場合、ガイドブックに記されているものだけを説明するだけでなく、現地の見聞と、エピソードを加味した説明する事により、老若男女、親子共々の方により良く理解してもらえます。

2 時間のコースを同行して、最後のガイドを終了した時に、「ああ、今日は此処へ来て良かった、有難う」と言う言葉をもらった時が、我々ガイドをする者にとって一番の喜びであり、その言葉が「おもてなし」の心が通じあえた時と心得ています。

毎日、多数の方々と接していますが、我々からは多数でも、来訪者の方からは一度の出会いかも知れません。また我々の方も一度の出会いかも知れません。「一期一会」記憶に残る出会いを楽しみましょう。

会員の皆様も「おもてなし」をよく理解されている事と思います。来訪者には気持ち良く、「おもてなし」をしましょう。



平成 21 年度総会開催 14 期生歓迎

副会長 後藤昌弘

新年度を迎えて 4 月第 2 週の火曜日 14 日に、4 月定例会を兼ねて平成 21 年度総会を例年通り開催しました。会発足当初から 4 月第 2 週火曜日は「総会」と定着して 14 年、会の別名を『火曜会』と称する由縁でもあります。旧年度末には、メンバーの休・退会もあり、総員 53 名となりましたが、新年度は新入会 9 名を迎え、総員 62 名となりました。

総会は会長の開会挨拶から始まり、来賓挨拶では柿衛文庫今井館長からは、イベントへのお誘いを兼ねたご挨拶を。文化振興財団からは、県・JR の交流キャンペーンへの協力へのお礼を含めたご挨拶を戴きました。教育委員会、社会教育課の人事異動に伴う新担当者の紹介がされました。議事に入り、旧年度の各行事の報告、会計報告、監査報告とほぼ順当に運び、承認されました。

新年度活動計画では、昨今の一般または市の全文化財・歴史に対する、考え方・扱い方或は接し方の変化を感じつつ、例年の取り組みに加えて、既に本番に入っている、県・JR の交流キャンペーンへの取り組み。3 年経過後のこれからのタイアップ事業への取り組み。ロマン事業への協力等。また、研修も新しいメンバーも増えることもあって市内散策研修への取り組み等説明。これに伴う予算も含めて、大きな議論もなく承認可決されました。

続いて、先の新入会の皆さんの紹介では、この日出席の 8 名の自己紹介で

会への馴染みの 1 歩が進み、同時に皆さん、はりきっておられるので、嬉しく思いました。4 月度の定例会では、早速に曜日別班や分科会、イベントへの参加呼びかけ等これまでにない勧誘合戦、帽子・ブルゾンの配給があって、気分も新たに新年度をスタートできる運びとなりました。

今月末には、研修市内散策があります。5 月には恒例の春のバス旅行があります。見聞を広める好機、古きも新しきも、ながーく楽しくやりたいものです。

牛松山登山

13 期生 松木直志

山登りが好きで毎年その年の干支にちなんだ山に登ることにしています。昨年の子の泊り山は大変でしたが、今年の牛松山は亀岡の北ですので楽です。

山頂に古い金毘羅宮と無線設備があるので道も良くすぐに登れました。地図を見ると駐車場の近くに丹波国分寺跡があるようなので行ってみます。礎石と樹木しかありませんが市指定の巨木の数々は見ごたえがありました。あぜ道をのんびり戻ってくると、発掘調査をしている現場があります。府道建設によるもので中世の住居跡とのことでした。作業をしているお婆ちゃん達に「何か出ましたかー」と声をかけたのですがまったく無視されてしまいました。大阪のお婆ちゃんなら売り言葉に買い言葉たちまち話はずむのですが。というように会に入会しましてからは山登りだけではなく山の付近の文化財・歴史にも興味広がってきています。

どんぐり座 本年度初公演 細川 勝海

4月22日(水)13:00~15:00 有岡センターにて開催されました地区老人会の集いにて、紙芝居2題・ペープサート1題を公演しました。演題は、紙芝居が(大鹿の雨乞い)と(二蠟丸)、ペープサートが(相撲狸)です。今回は前日に新入団された14期生3名がいきなりペープサートで初出演をされましたが、セリフも人形の動きもなかなかのものでした。観客数が公演者と変わらない20数名でしたが、皆さん、伊丹の昔話に真剣に聞き入っていました。ペープサートの人形の動きには、大きな笑い声が会場を揺るがせましたよ!



丁稚志願落第記 13期生 黒田 洋志

滅多に掛かって来ない女性からの電話が自室にありました。ボランティアガイドのK女史からでありました。共に研修や勉学に励みました13期で一緒だった彼女でした。用件を尋ねてみますと原稿用紙600字分の原稿依頼がT先輩より為されているとのことでした。何故、私に白羽の矢が立ったのかわからぬままに筆を執らせて頂きます。

まずは昨年度の例会の出席状況を見ますれば全休でした。ヤヤヤ……ヤヤヤと相撲の取組表ではヤの字が続いた筈でした。唯一、唯二の例外はバスでの研修ツアーでありました。春は石山寺、秋は刀田山鶴林寺と私にとりましてはいずれも思い出の地でした。就中、石山の対岸の瀬田に疎開しておりましたので石山寺はとても懐かしく感じました。眼前に流れる母なる瀬田川を何度往復したことでしょうか。秋は播州高砂の地でした。訪れました鶴林寺は学生時代のサークル仲間の実家でありました。46年も前の話ですが同寺に泊めて貰った記憶が蘇って参りました。このような良い段取りにて終わりました本会での1年目でした。2年目は心も入れ替えて丁稚修業に精を出すべく今年3月の貼り付き日には敬愛致しますH先輩のガイドぶりをつぶさに拝見させて貰いました。テキストも自分なりにカットを行い各項目毎に裏書きを貼りつけてカード化を図り暇な時には掌の上に繰り出しております私です。どうぞ今後共宜しく願います。

文化財ボランティア養成講座 市民ガイド雑記 坪倉聖博

文化財ボランティア養成講座が1月～3月に開催され、講座終了生の方たちによる一般市民ガイドが3月20日（金）春分の日に行われ、途中からではあったが参加し最終地まで同行した。この日は朝からどんよりとした空模様で雨の心配もしていたが、市民ガイドが始まる頃には薄日も差しまさずの天候となった。参加者は市民の方約30名、現会員等々を合わせると総勢70名を超す大集団であった。今年のコースは有岡城主郭部をスタートし本泉寺から福円寺を経て大坂道を南下、鶴塚砦→杜若寺→猪名の笹原、そして尼崎市域の猪名寺麿寺→園田大塚山古墳→南清水古墳を経てJR猪名寺駅までの片道約3.2kmのコース。今年 of 市民ガイドの特筆すべきことは、隣接する尼崎市域の文化財をも取り込んだコース設定であろう。

当日の受講生皆さんのガイドぶりは、詳細な資料作りから事前の現地ガイドも数回実施されたとかで全員の方が堂々とガイドをされ、現会員として安閑としておれない気持ちと同時に頼もしくも思えた。そして4月に、9名の方が文化財ボランティアの会に入会され、大歓迎です。この会は全員が仲良く、楽しく、愉快地、をモットウに活動しております。新入会の皆さんも、まずは気楽に活動を始めましょう。

生きがい探し応援セミナーに パネル展示で参加

「生きがい探し応援セミナー」は、団塊世代の方を対象に、地域活動とは関

わりがなかった人々や関心は有るが、活動に結びついていない方のために実施されています。今回は、梶井市民部長の挨拶の後、オープニングセレモニーとして、オペラ歌手の高原千秋さんが数曲歌われました。その後、岩木啓子さん（ライフデザイン研究所）のワークショップ「自分らしい『地域での暮らし方』を見つけましょう」が講演され、当文化財ボランティアの会員でもある川上さんが率いる大道芸サークルやマジック同好会のすばらしい芸術が披露されました。当会は、文化財散策コースのマップや、江戸時代の郷町地図、平成17年度以降に受賞した数々の表彰状・盾、紙芝居ファイル等を展示し、「文化財を訪ねて」の冊子を3冊売り上げました。当会は希望されたからと言って即入会できるわけではないので、勧誘には難しい面もありますが、紙芝居の公演や注連縄作りに興味を抱かれる方がおられました。フィナーレは、高原千秋さんの指揮による昔懐かし歌声喫茶の曲目を会場内全員で合唱しました。（細川）



中世における寺院

中川 康

日本の中世

日本の中世は何時から始まったと考えるべきか？

- 1) 鎌倉幕府が誕生した時、守護地頭が各地に置かれた **1185** 年、もしくは源頼朝が征夷大將軍に任じられた **1192** 年。
- 2) 摂関政治から抜け出すべく、白河法皇による院政が開始された **1086** 年。
- 3) 京都祇園社が、東は東山、西は鴨川西岸の堤、南は五条末、北は三条末という広大な地域をその境内として領有することが認められ、京の東半に寺社境内地の常識を大きく越える巨大な「不入地」が誕生した **1070** 年。
- 4) 律令制の下でも荘園制的な土地所有は進んでおり、国家が私有を認めた「三世一身の法」**723** 年か、「墾田永世私財法」**748** 年。

それでは、日本の中世は何時終ったと考えるか？

- 1) 応仁の乱が勃発して、「所領田園」や荘園制にもとづく土地分割が終わったと考え、**1467** 年。
- 2) 織田信長が政権を奪取した上洛の年、**1568** 年、または **15** 代將軍足利義昭を京都から追放して、実質的に室町幕府が崩壊した **1573** 年。
- 3) 秀吉が実施した検地、**1582** 年。継続に実施された検地により、荘園制度は完全に崩壊し、土地は公儀のものとなった。
- 4) 秀吉は根来寺、粉河寺および紀州惣国を攻撃して、両寺は焼き払われ紀州惣国も全滅に瀕した。征服直後の **1585** 年 6 月、高野山および紀州惣国に対して「刀狩令」が出された。三年後 **1588** 年に全国一斉に施行された刀狩令の先駆である。

刀狩令発布、無縁所の終り、**1588** 年 7 月 **8** 日を以って中世の終焉、近世の開幕と見る。

かくかくかように、日本における中世とは何か、何時か、また国家はあったかという問題は、その寄って立つ立場で、見解が異なってくるのである。日本の中世は、大雑把に言って、院政開始の前後から織豊政権までの時代と考えられる。

中世における寺院

空海は、大乘真言密教を日本に請来し、神々の神身離脱と仏教への帰依、そのための神宮寺建立という趨勢(神仏習合)を促進させた。地方豪族と神宮寺はますます高野山金剛峰寺と東寺に従属する動きを見せ、土地寄進も進んでいった。非密教系の大寺院、興福寺・元興寺・薬師寺・大安寺など南都六宗の寺々、あるいは比叡山延暦寺などの大寺院も密教の教えを取り込まざるを得なかった。かくして、中世の大寺社は、宗教上の修行の場所や宗教的空間というだけではなくなった。寺社勢力は、大土地所有者であり(紀伊国では全水田面積の八、九割が寺社領、大和では全水田面積のほとんど全部が興福寺、東大寺、多武峯、高野山、金峯山領)、検断不入権を持つ無縁所であった。また、武士階級あるいは他宗教集団に対抗すべく、強大な軍事力を持っていた。僧兵は武士並の武力、軍事力を行使できたのである。中世寺僧は、「発心して出家した個人」の集合ではなく、僧の家という世襲の職業集団である。

例えば、高野山は領内武士を軍事力として動員する。軍忠状と感状が交換され、それが荘官が役職を保持する根拠になった。いわゆる御恩と奉公の関係に相当する。高野山には全部で七千坊の子院があった。一坊の居住者を十

人とすれば人口七万人、二十人とすれば人口十四万人となる。

根来寺は、往時その所領七十二万石という大大名であり、強大な軍事力を持ち（僧兵一万人）、高度な石積施設を持っていた。石垣で敷地の四方を固めた子院を持ち、周囲の山上に土塁を築いていた。南北朝時代に弓・矢・楯の製造を行っていた。鉄砲伝以来、鉄砲の製造をも行っていたと考えられる。根来寺は、1500年に和泉守細川元有を滅亡させ、1562年には幕府の有力者三好実休を鉄砲で討ち取っている。寺院の金融活動は、平安時代初期からあり、その歴史は古い。また、鎌倉時代前期には本格的な貨幣経済に入ったこともこの金融活動を推進させることとなった。金融業者としては、比叡山・熊野・高野山などが有名である。寺社は訴訟遂行能力を有しており、俗人の裁判代行をする弁護士的一面をも持っていた。

このように、中世の大寺社は、当時の最先端技術を持ち、軍備を充実させ、巨大な経済支配者として君臨したのである。

中世における寺内町

中世の都市といえば、堺・平野などの自治都市や浄土真宗（一向宗）寺院を中心とする寺内町が挙げられる。寺内とは、寺や道場の信仰施設、寺の前の公共広場、坊主・家来の家、そして在家の屋敷を含む空間を指す。守護不入、緒公事免許といった特権を持つ。寺内町とは、寺内を中心に人々が生活を営むために、土塀・堀で囲まれた惣構えの空間を指す。寺内に対しては地下という言葉がある。特権を持つ寺内に対して、寺内特権を持たない地域を指す。寺内町建設に際して、1) 十五世紀以前に守護不入権を認められた寺院先行型、2) 十六世紀中葉に畿内

に多く出現する、荒地を占拠・開発して不入権を認められた寺院・寺内同時併行型とがあった。また、寺内町の立地の環境、社会環境を考えると、1) 大都市型、2) 農村単立型、3) 都市複合型に分類される。都市複合型には、枚方・大坂・富田林などが入る。

大坂御坊（石山本願寺）を例に挙げると、大坂御坊は明応五年（1496）、本願寺第八世蓮如によって創建され、摂津・河内門徒の結集核となり、十六世紀に入ると寺内町として急速に成長を遂げた。天文一揆の際（1532）には、三万ともいわれる門徒勢が河内守護の畠山義宣や畿内政治の実力者三好元長らを戦死させている。この天文一揆の最中に第十世証如が大坂に本拠を移したため、大坂御坊は本山となり、全国門徒の中心となり、大坂寺内町はますます発展した。蓮如が上町台地を先端の地を坊舎の場所に選んだ理由としては、大坂が海と川の水上交通路の要衝であり、北端部周辺には中島天満宮（天満天神社）、四天王寺や堺といった複数の都市があり、布教活動・経済活動に有利であったことが考えられる。大坂周辺の寺内町、摂津の塚口・名塩・小浜・富田、河内の枚方・招提（枚方市）・久宝寺（八尾市）、和泉の貝塚なども、「大坂並」という論理で、大坂御坊が有する守護不入、緒公事免許といった特権を獲得していった。こうして、戦国時代の大阪平野には、寺内町ネットワークが形成され、政治（軍事）・経済・宗教三位一体の強固な社会体制が出来上がったのである。これを「大坂並体制」とよぶ。

日蓮宗の寺内町であった尼崎本興寺、長遠寺（じょうおんじ）にも触れておく。荘園制が維持されていた鎌倉・室町時代には、遠隔地から首都京都への物品輸送は主に海上や河川を用いる水上輸送で行われた。戦国期に入ると、首

都経済圏は、新しく形成される寺内町や城下町に支えられるようになった。したがって、大阪湾とその向背地、また淀川・旧大和川流域(摂津、河内)を支配することは極めて重要であった。三好長慶は阿波から摂津「下郡」に本拠地を移し(西宮越水城)、摂津国人を結集することにより、細川氏や足利将軍を打倒することができた。長慶は、大阪湾の港湾都市(堺・兵庫津・尼崎)の法華宗寺院や有力な商人と結びつき、法華宗寺内町の建設を援助し、課役の免除や徳政令の除外など都市特権を与えた。尼崎においては、本興寺の寺内町形成が進展した。同様に、長遠寺が寺内町を形成していたことは長遠寺文書(禁制等)で知ることができる。

なお、長遠寺は観応元年(1350)に七ツ松に、本興寺は応永二十七年(1420)に大物に建立された。現在の尼崎市寺町にある両寺は、元和三年(1617)、尼崎城築城にともなって、現在地に移転させられたものである。近年実施された発掘調査の結果によれば、富田林寺内町では、現在の町並みの周縁部のほとんどで十八世紀以降の遺構しか確認できないことから、戦国時代の寺内町は一回り小さかった可能性が指摘されている。久宝寺寺内町では、町並みの下から、現在と方位の異なる遺構が出土しており、戦国時代には現在のような碁盤目状の町割りは形成されていなかったとみられている。現在の寺内町の在り様から戦国時代のそれを安易に推測しないように注意する必要がある。

参考文献

- 1) 伊藤正敏「寺社勢力の中世—無縁・有縁・移民」筑摩新書 734
- 2) 仁木宏「寺内町と城下町」(日本の時代史 12 戦国の地域国家) 吉川

文館

- 3) 天野忠幸「大阪湾の港湾都市と三好政権—法華宗を媒介に—」都市文化研究、Vol.4,87-97(2004)
- 4) 天野忠幸「戦国期畿内の流通構造と畿内政権」都市文化研究、Vol.9,54-69(2007)

思い出の世界遺産(1) エジプトの巻 山内富美子

カイロ、ギザ、アレキサンドリア
ルクソール、アブ・シンベルを巡って



エジプトは、世界遺



産の宝庫である。その宝庫を訪れた順に、感動のエジプト・ロマン

の旅で辿ってみたい。首都のカイロ市内では、考古学博物館を訪問。ツタンカーメン王の関係の秘宝は、すごい。彼の黄金のマスクをはじめ、すばらしい装飾を施した黄金のお棺や、彼と若い王妃との微笑ましく、親密そうな玉座、死者を守る女神たちや、死者を守護する山犬の姿のアヌビス神等々。そして、紀元前 2650 年ころからの歴代の王や王妃、王女達の数々の像の巨大さと精巧さには、驚嘆する。さて、考古学博物館の外に出ると、3月に訪れたのであるが、今年初めての雨が降り、砂あらしで街の中が黄色く曇っていたのがとても印象的である。

カイロ近郊のギザでは、三大ピラミッドといわれているメンカウラー王とカフラー王とクフ王のピラミッドを見るが、一番大きいのはクフ王の大ピラミッドである。クフ王のお棺を納めたといわれる玄室には、花崗岩のお

棺が置いてあるが、最近の学説では、クフ王のお棺ではないと異説を唱える学者もいるとのこと。クフ王のピラミッドの中に入った当日は、少し雨が降り、時期が3月で暑くない日であったが、大回廊の急傾斜の階段を登ってクフ王の石棺の所にたどり着いたときには、汗がぼたぼたと落ちるくらい蒸し暑さを感じた。現地のガイドさんの話では、「真夏には、とてもここまでは、上がって来られない」とのこと。又、大回廊の下の方にあるトンネルのような通路をくぐって、女王の間にも行ってみる。ギザで出会ったスフィンクスは、顔がカフラー王だとされていて、体がライオンであるが、鼻がこわれていて、おせじにもハンサムとはいえず、少しがっかりしたのを思い出す。鼻は、アラブ軍が砲撃練習で落としたり、フランス軍が小銃で打ち落としたりとか、色々説があるが、崩壊の危機にさらされているのは確かである。又、王の象徴であるつけひげは、イギリスに持って行かれ、現在、大英博物館に所蔵されている。

さて、次は、カイロからバスで3時間、鳩の家と呼ばれている塔のような珍しい建物を見ながら、砂漠ハイウェイを走って到着したのがアレキサンドリアである。紀元前4世紀に、アレキサンダー大王が造らせた都市で、クレオパトラも住んでいたという町である。

地中海に面していて、最近では、海底遺跡の発掘も行われているが、地上にある遺跡を見学する。小高い丘の上に立っている30mの巨大なポンペイの柱、地下墳墓のあるカタコンベ、お城のようなカイト・ベイの城塞、4000点の遺物の展示してあるグレコ・ローマン博物館などを見る。グレコ・ローマン博物館には、アレキサンダー大王や、クレオパトラ、シーザーの像があ

り、アレキサンドリアを始め、エジプトの各地から出土したギリシャ・ローマ時代の遺物が展示されていて、あたかも、ギリシャの博物館の中にいるような印象を持った。

次に、カイロ空港からナイル川の上空を飛ぶこと南へ約1時間、古都ルクソールに到着。ルクソールは、かつては、テーベと呼ばれ、エジプト最大の都市として栄えた街で、ナイル川の中流に位置する。ナイル川を挟んで東岸には、カルナック神殿群とルクソール神殿がある。カルナック神殿では、アメン大神殿を中心に、羊頭のスフィンクス40体が並ぶ参道、大列柱室、ラムセス2世の巨像、王や女王のオベリスク、スカラベ（ふんころがし）の大石像など、驚くべき巨石の文化に出会う。ルクソール神殿の前には、人頭のスフィンクスの参道があり、ラムセス2世の坐像や、オベリスク（記念碑）や、沢山の列柱が立ち並ぶ。ここで、ひとつ印象に残っていることは、このルクソール神殿の中に、イスラム寺院（モスク）が建っていて、遠い過去と現在が、共存していることである。

ナイル川を船で渡り、西岸に着くと、そこには、王家の谷を見守るように、ナイル川に向かって立っている一対のメンノンの巨像がある。高さ21mの巨像の足元には、母と妻の小さな像が彫ってある。又、西岸には、古代エジプトでは珍しい女性のファラオであるハトシェプスト女王の華麗な葬祭殿がのこっている。ここでは、東京から来たツアーの何人かが、テロリストによって射殺された悲劇のあった場所でもある。

さて、西岸のハイライトは、王家の谷で、今までに60余りの墳墓が発見されている。しかし、遺跡の状態により公開している墳墓も流動的で、有名な墓でも閉鎖中の場合がある。

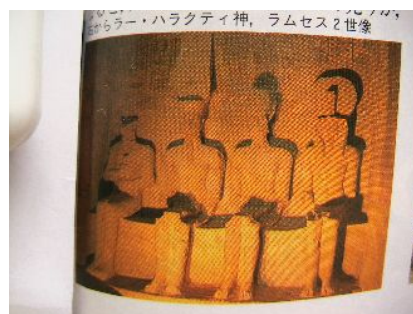
王の墓所は、谷間の奥に隠された岩窟墳墓で、中には、入り口から玄室まで150mもある大きな墓もある。通路や各部屋の壁や天井には、美しく彩色された神々や王の像や、星座及び、ヒエログリフ(古代エジプトの象形文字)の絵図が描かれていてとても豪華である。私は、ラムセス3世と9世、そして、トトメス3世の3つの王墓に入り、いずれも、その大きさとゴージャスさに息をのむ思いがする。ツタンカーメン王の墓は、内部の副葬品のほとんどをカイロの考古学博物館で見たいのと、入場するのに大勢の人が並んでいて時間がかかるので入らず、後で、入った人に聞くと「墓は、小さいし、内部も大したことは無かった。」とのことだった。

エジプトの世界遺産の中で、最も印象に残っているのが、今から約3300年前に造られた古代遺跡の巨大な建造物であるアブ・シンベルの神殿である。そこには、オプションで出かけ、空路ルクソールから、アスワンを経由して、アブ・シンベルに到着。アブ・シンベルは、エジプトの南端に位置していて、スーダンとの国境に近い。こんな辺境の地に、紀元前1300年もの昔に、巨大な神殿が造られたことに、驚きを禁じ得ない。しかも、ダム建設により神殿が、ナセル湖の湖底に水没するのを救済するために、ユネスコが動き、大規模な解体移築作業により、神殿遺跡が世界遺産として、私達の目の前に姿を現していることに対して、畏敬の念さえ覚える。壮大な移転事業の様子をビデオで見たが、国際協力の下、人類の英知を集めて、現代の科学の力で岩山の中に大ドームを造り、その中に神殿は、納められている。幸いに、その時訪れた者が数名の少人数であったため、現地のガイドさんに案内されて、そのドームの中に入り、コン

クリートで支えられている工場のような神殿の裏側を見ることができた。

アブ・シンベル大神殿の正面には、高さ20mもある巨大なラムセス2世の像4体が座り、足元には、王妃や王子・王女がいて、縁取りの最上部には、両手を挙げて朝日を礼拝する22体のヒヒ像が並んでいる。神殿の中に入ると、高さ10mのラムセス2世の立像8体で構成されている大列柱室があり、その両側の壁には、ヒッタイトの戦いを描いたレリーフがある。神殿の一番奥にある至聖所には、神格化したラムセス2世を含む4体の神の座像が鎮座している。毎年、2回、春分の日と秋分の日頃には、入り口から差し込んだ日の光りが、これらの神像を照らすという。この日に意図的に合わせて設計が行われたかどうかは、学者間で議論の分かれているところであるが、年に2回だけ、朝日が神殿の入り口から真っ直ぐに差し込み、至聖所奥の4体の神像を照らすという事実には、やはり、計算された英知があると思われる。この話を聞いたとき、実際に日の光りが神像に当たる光景を見ることの出来る日に居合わせたら、どんなにすばらしい事かとふと想像してみた。

アブ・シンベルには、ラムセス2世が、ネフェルタリ王妃のために建造したハトホル神殿(小神殿)もあり、これら、大神殿と小神殿の前には、満々と水をたたえた静かなナセル湖が広がっていて、岸辺の水としばし戯れ、旅情にひたることのできた。



市民ガイド実施表 (08.04~09.03)								
	2009年1月		2009年2月		2009年3月		08.4~09.3 累計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
月							2	106
火							7	238
水					1	13	7	153
木			1	11			7	181
金	1	2	2	80			10	267
土	1	17					9	242
日			1	23	1	40	7	4233
計	2	19	4	114	2	53	49	5425

ガイド予定

5月3日(日)	Aコース	阪急電鉄(神戸)
5月13日(水)	岡田・石橋	せせらぎ(芦屋)
5月13日(水)	同上	JR西ジパングクラブ
5月14日(木)	Aコース	奈良古代史研究会(奈良)
5月15日(金)	岡田・石橋	扇友会(宝塚)
5月15日(金)	Aコース	老大OB会(吹田)
5月15日(金)	岡田・石橋	JR西ジパングクラブ
5月20日(水)	Aコース	ふみの会歴史探訪(芦屋)
5月20日(水)	岡田・石橋	同上
5月22日(金)	城跡・岡田	(宝塚)
6月2日(火)	岡田・石橋	JR西ジパングクラブ
6月4日(火)	同上	同上
7月4日(土)	昆陽池文学碑	京都アスニーかるた教室(京都)

どんぐり座公演記録

1月27日(火)	鈴原小学校	(三軒寺の砂かけ狸/すもんだぬき)
4月22日(水)	有岡センター	(大鹿の雨乞い/二蠟丸/すもんだぬき)

主な行事予定(共催・支援を含む)

5月12日(火)	定例会兼春季研修バス旅行	(根来寺、粉河寺、紀州東照宮)
26日(火)	am屋外研修	市内Cコース(金曜G担当)
26日(火)	pm屋外研修	市内Dコース(木曜G担当)
6月9日(火)	定例会	
23日(火)	am屋外研修	市内Eコース(土日G担当)
30日(火)	am屋外研修	市内Fコース(土日G担当)
7月14日(火)	定例会	

歴史ロマン体験講座

5月9日(土)石庖丁作り 6月27日(土)団扇作り 7月25日(土)草履作り

編集後記

火曜会通信 No.41号から編集等をパソコン分科会が担当することになった。前任者の助言を得ながら、より読みやすい物にしたいと思っている。とは言うものの皆さんに原稿を書いて貰わないと始まらない。随筆、旅行記、短歌、俳句など、